

委員会視察記録

| | | |
|------|--|-----------------------------------|
| 委員会名 | 文化観光委員会 | |
| 期間 | 令和7年1月14日～16日 | |
| 参加者 | 委員長 伊藤 和子 副委員長 市川 秀之 委員 土屋 源由 委員 河原崎 聖 委員 菅沼 泰久 | 副委員長 河原崎 全 委員 天野 一 委員 鈴木唯記子 |
| 視察先 | 1 MRO J a p a n 機体整備工場（沖縄県那覇市） 2 沖縄県庁（沖縄県那覇市） 3 美々ビーチいとまん（沖縄県糸満市） 4 勝連城跡 あまわりパーク歴史文化施設（沖縄県うるま市） | |

視察の概要

1月14日（火）

■ MRO J a p a n 機体整備工場

<概要>

MRO J a p a n 機体整備工場は、平成27年創業、平成31年1月から沖縄で事業を開始した。小型機の機体整備および塗装を強みとしている。

収入の約7割から8割がドック整備（飛行機の車検）、2割から3割がライン整備、装備品整備である。

令和4年5月に見学事業を開始。理系企業を観光コンテンツとして提供することで修学旅行等の誘客につなげている。

<主な質疑応答>

Q. 採用後の教育は。

A. 入社してから4カ月基礎教育をした上で現場に出すため、ゼロ知識のまま入社しても大丈夫である。

Q. 見学ツアーの状況は。

A. 去年が約3,000人、今年は現時点で約3,600人で、航空機整備のイメージをもってもらうため、修学旅行や社会科見学の学生を中心に来ていただくことを目的にしている。



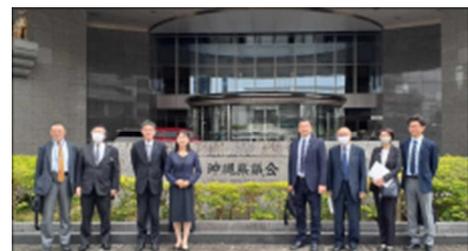
1月15日（水）

■ 沖縄県庁

ア ユニバーサルツーリズム促進事業の取り組み（観光振興課）

<概要>

沖縄県は、平成19年に国内初となる観光バ



リアフリー宣言を打ち出し、誰もが楽しめる優しい観光地を目指して各種取り組みを進めてきた。ユニバーサルツーリズム推進に向けた取り組みとして、県内の観光事業者などを対象にしたセミナーを開催し、高齢者、障害者等の受け入れに係る配慮や接遇についてノウハウを共有している。またアドバイザー派遣により観光事業者の相談内容に対して総合的な助言をしている。

さらに、ポータルサイトによる情報発信、プロモーション動画の作成などによりユニバーサルツーリズムの取り組みを国内外に発信している。

<主な質疑応答>

Q. 外国人向けの対応は。

A. 観光案内所を設置し多言語への対応をしている。また医療ダイヤルにより病気の相談を受け入れている。

Q. 条例制定および市町、民間との連携は。

A. 条例制定は、高齢者障害者以外に外国人、宗教上の対応などがあり難しいが、アドバイザー派遣による専門家の意見聴取を踏まえ、市町、民間と一緒に地域に合った対応をしている。

イ スポーツの成長産業化事業の取り組み（スポーツ振興課）

<概要>

世界に羽ばたき躍動するスポーツアイランド沖縄の形成が基本理念である。冬のスポーツを活用した観光の平準化、スポーツキャンプによる宿泊数の延伸の実現に取り組んでいる。

補助事業では民間のアイデアを生かし、スポーツと他産業を掛け合わせる産業を創出しスポーツ関連産業の裾野を広げている。またスポーツビジネス人材を育成している。

<主な質疑応答>

Q. 健康事業との関連は。

A. 健康関連の部署ではアプリを開発して、運動するとポイントがもらえるポイント制としている。スポーツ推進計画では競技としてのスポーツのハードルを突破し、親しみやすい機運を浸透させていきたいと考えている。

Q. スポーツの成長産業化の方法は。

A. 民間のアイデアを生かすため公募制にして、1事業体1000万円を上限として補助金を交付して事業発展をしてもらう。

ウ 世界文化遺産の保存、整備、活用（文化財課）

<概要>

沖縄の世界文化遺産は、平成12年12月の登録の際に9つの資産をまとめて琉球王国のグスク及び関連遺産群という1つの世界遺産となり、県だけでなく所在する市町村が主体となって整備から活用まで行っている。

首里城跡は、コアになる土地部は国の土地、一番外側の城壁は沖縄県文化財局、城壁から外側の文化財指定地は県営公園の扱いである。

活用としては、世界遺産登録時の記念事業で副読本を県内学校に配布したほか、シンポジウム、スタンプラリーおよび巡回展を開催した。

<主な質疑応答>

Q. 世界文化遺産登録に際して地元への説明内容は。

A. 首里地域は条例で建物の高さ制限があるが、基本現在の暮らしにマイナス

になることはない」と説明している。

Q. 地元とのトラブルはあるか。

A. 史跡などは地元市町村からの指定要望の意思を尊重しているため、活用できないため困ると言う市町村はあまりない。

エ 首里城公園周辺のオーバーツーリズム未然防止（首里城復興課）

<概要>

首里城が観光客用の施設という考えを見直し、周辺地域の人にも愛される公園を目指して町づくりを進めている。

首里杜地区整備基本計画では、暮らしと観光の両面から交通環境の改善を図っており、オーバーツーリズム対策もその一環として取り組んでいる。具体的事例としては、首里城公園の駐車場予約システムの改善により、午前中の大渋滞を解消し見学時間の平準化を行った。

<主な質疑応答>

Q. 車以外の交通手段は。

A. 2カ所のモノレール駅からそれぞれ徒歩10分から15分くらいであるが、ホテルからはモノレールで来ていない。

Q. 外国人対応の課題は。

A. 支払いのデジタル対応が課題で、対策に取り組んでいる。

■ 美々ビーチいとまん

<概要>

美々ビーチいとまんは、沖縄県唯一の県管理第3種漁港施設の一部で、近隣には水産業関連施設をはじめ宿泊施設等の観光施設を有している。

平成4年4年に糸満公園基本計画が策定され、市民開放型のビーチとして整備するとともに、観光拠点施設として活用することになった。

4月から10月までが海開きだが、令和5年度11月から3月まで通常の公園として利用した41万7020人のうち、ビーチホテルの利用者が散歩、ジョギングなどで来園した。

沖縄県民はバーベキュー目的の利用が多い。沖縄県唯一の大型東屋があり、団体、修学旅行の誘致に寄与している。

<主な質疑応答>

Q. 平成4年度当初計画後の見直しは。

A. 社会状況の変化で、当時の構想にあったコンドミニアムは需要がなくなり大型ホテルになった。

Q. オフシーズンの参考になる取組は。

A. イルミネーション、プロ野球チーム等の合宿利用に有効活用している。



■ 勝連城跡 あまわりパーク歴史文化施設

<概要>

勝連城跡は、平成12年に世界遺産琉球王国のグスク及び関連遺産群の構成資産1つとし



て登録され、現在でも発掘調査を実施しながら柔軟な活用も考慮に入れ整備を進めている。

勝連城跡周辺整備事業は沖縄県内では初の公園を含めたPFI事業の取り組みであり、世界文化遺産のPFI事業は全国的に珍しい事例である。

現在の歴史文化施設であるあまわりパークに加え、今後物販飲食施設、公園および宿泊施設を整備し、通過型観光からの脱却を目指す。

<主な質疑応答>

Q. 宿泊施設の内容は。

A. RVキャンプ場、サウナエリアを含めた低層のホテルが提案されている。

Q. あまわりパークにおける広報は。

A. 教育旅行を意識した映像コンテンツを放映している。一部アニメーションをYouTubeで公開して来館する前に事前学習ができる。土日は20分程度のあまわり（阿麻和利：勝連城の城主）に関するライブパフォーマンスを行い、歴史的な背景を感じていただいている。